

**【使徒書日課】ローマの信徒への手紙 8章22～27節**

22被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。23被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。24わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。25わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。26同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださいからです。27人の心を見抜く方は、“霊”の思いが何であるかを知っておられます。“霊”は、神の御心に従って、聖なる者たちのために執り成してくださいからです。

**【福音書日課】ヨハネによる福音書 16章12～24節**

12言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。13しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。14その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。15父が持つておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

16「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる。」17そこで、弟子たちのある者は互いに言った。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』とか、『父のもとに行く』とか言っておられるのは、何のことだろう。」18また、言った。「『しばらくすると』と言っておられるのは、何のことだろう。何を話しておられるのか分からない。」19イエスは、彼らが尋ねたがっているのを知って言われた。「『しばらくすると、あなたがたはわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる』と、わたしが言ったことについて、論じているのか。20はっきり言っておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。21女は子供

を産むとき、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子供が生まれると、一人の人間が世に生まれ出た喜びのために、もはやその苦痛を思い出さない。22ところで、今はあなたがたも、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びをあなたがたから奪い去る者はいない。23その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねない。はっきり言うておく。あなたがたがわたしの名によって何かを父に願うならば、父はお与えになる。24今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。」

### 《真理の霊》が来る【こども説教のために】

主イエスのご復活を祝ったイースターから、まもなく 40 日になります。弟子たちの集まるところに現れてくださっていた主イエスが、天に昇られるときです。

主イエスは、ご復活から 40 日目に突然、天に昇られたわけではありません。弟子たちにあらかじめ、ご自分が天に昇り、弟子たちの前から離れることを、お告げになられていました。

そのことを、弟子たちは、どんな気持ちで受けとめていたのでしょうか。おそらく、とても複雑な思いでいたことでしょう。一度は、主イエスが逮捕されたときに、自分たちから離れて行ってしまっていたのです。今度は、主イエスご自身が弟子たちの前から離れて行かれる、というのです。

もちろん、弟子たちは、なぜ主イエスが自分たちの前から離れて行かれ、天に昇られるのか、理由を聞かされてきました。主イエスが弟子たちの前から離れられるならば、弟子たちには、天から聖霊が与えられるのです。「聖霊降臨」です。主イエスが弟子たちの前から離れて行かなければ、弟子たちは「聖霊降臨」を体験するようになることはできないのです。

それは、ご復活して集まりに現れてくださっていた主イエスが、弟子たちにお語りくださったことでしたが、実のところ、十字架につけられる前からお語りくださっていたことでもありました。弟子たちは、十字架で死なれる前の晩に主イエスがお語りくださった言葉を、しっかり思い出していたはずです。ご自分に代わって、天の御父のもとから《真理の霊》が遣わされ、弟子たちといつまでも共にいてくださるようになりますと、主イエスはお語りくださっていたのです。

教会は、主イエスがお約束くださった聖霊、**真理の霊**と共に歩んできた者たちの集まりです。主イエスのお姿が見えなくても、聖霊が共にいてくださるのです。わたしたちは、聖霊と共に「神の子」とされているのです。

## 「もう見なくなるが、また見るようになる」

皆さんは、主イエスというお方がどのような姿をしていらしたのか、その顔つきや体格などを、どのように想像されていらっしゃるのでしょうか。実のところ、映画などで主イエスを演じた俳優の姿の印象が強く、実際のお姿をありのまま想像することは、案外難しいところがあるかもしれません。仮に、かつてご復活されて弟子たちの集まるところに現れてくださった主イエスが、今ここにおいでくださったとして、わたしたちは、その方が主イエスだとは分からないのではないのでしょうか。

ご自分の代りとなる聖霊、真理の霊が遣わされることを約束くださった主イエスでしたが、弟子たちには、不思議な言葉も残していました。「わたしは再びあなたがたと会う」というのです。

キリスト者の中には、本当に主イエスとお会いした経験を持つ方がいらっしゃいます。あるいは、そのお姿をはっきり見たのではないにしても、その御声を聴いたとおっしゃる方は、いるのです。前任地の教会で集会においでくださっていた方の中に、「幼い頃、いつもある声が聞こえていた。あれは、イエスさまの声だったのだと思う」とおっしゃる方がありました。その方は、洗礼を受けておらず、キリスト信者との自覚もない人でしたが、それでも、教会の集会と一緒に聖書を学ぶ中で、主イエスとお会いしていた経験があるとおっしゃられていたのです。とても理性的な方でしたから、妄想や空想でお話しされていたわけではないと思います。

主イエスが、今でもわたしたちにお会いくださったり、御声を聞かせてくださったりしている、というのは、本当のことでしょう。ただ、わたしたちには、そのことが正直よく分からないところがあるのです。二千年前にガラヤで宣教され、エルサレムで十字架につけられた主イエスのお姿を、実際に見たこともなければ、写真や画像もないのです。もちろん、その生の声を聞いたこともありません。たとえ今、目の前に現れてくださったとしても、本物かどうか、確かめようがないでしょう。

それでも、教会は、弟子たちの時代以来、集まりの中に主イエスがおいでくださる、と教えてきました。聖霊が与えられたことを信じる者たちの集まるところで、主イエスを見ることができると、信じてきました。

それは、しかし、最初の弟子たちにとっても、当たり前のことではなかったでしょう。今日の福音書の中で、主イエスが「あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくすると、わたしを見るようになる」と言われたことを巡って、弟子たちは、互いに議論しないではいられませんでした。その意味を問わずにいられませんでした。それは、当然のことであったでしょう。そのことを問うて良いからこそ、福音書はこれを伝えているのです。

## 「再びあなたがたと会い…」

主イエスの言葉の意味を問うた弟子たちは、そのとき、一つの言葉に引っかかっていたようです。「しばらくすると」という言葉です。引っかかっていたというよりも、この言葉の意味をしっかりと受けとめることが、主イエスを「見る」ということを理解する上で大切だと、弟子たちは伝えようとしていると思われるのです。

「しばらくすると」。何と言うこともない言葉です。しかし、弟子たちは、この言葉を何度も問い直しました。なぜか。日本語に訳された「しばらくすると」では、特別に疑問が生じてくるようには思えません。原語（ギリシア語）を持ち出すのは気が引けますが、弟子たちが問うたことを考える上では、有用かもしれません。「しばらくすると」と訳されている原語は、「ミクロン」というギリシア語です。カタカナ語で「マイクロ」という言葉の語源です。「小さい」とか「ごく短い」という意味の、シンプルな語です。日本語で「しばらくすると」は、少し時間的な間があるように思えますが、「ミクロン」はもっと短い時間のニュアンスのようです。「一瞬」などと訳した方が良いかもしれない言葉なのです。

主イエスは、この「ミクロン」という言葉を用いておっしゃられたのです。「もう見なくなるが、一瞬、また見るようになる」と。

人の姿が見えたり、見えなかったりが、一瞬で変わるようなことがあるでしょうか。光の加減でしょうか。マジックの一種でしょうか。

実際には、わたしたちは、一瞬、ある人の姿を見ることがあると思います。誰かの姿の中に、別の人の姿が垣間見られるのです。まるで、別人が乗り移ったかのような所作振る舞いや言葉を、人は見せることがあります。もちろん、ただ真似をしたり、装ったりしているだけならば、わたしたちは、それと見破ることができるでしょう。それは、偽善（＝仮面）だからです。意図して人に見せようとする姿に、わたしたちは直感的に気づきます。そうではなく、その人自身がもはや無意識のうちに自分の中に刻み込まれたことによって行動したり語ったりしている姿の中に、わたしたちは、その人の今を生かした別の人、親であったり、師匠であったり、先達であったりの姿を見出だすことがある。

皆さんの中に、教会の先達の姿を、わたしは見ます。主イエスの姿を見ます。いつもではありませんが、一瞬、それと思われる姿を皆さんの中に見いだす。福音書の伝えているとおりの主イエスの姿。使徒たちの姿。それが、皆さんの中に現れてくるのが、確かにあるのです。

聖霊を受けた神の子である皆さん。互いのうちに、主イエスのお姿を見るのです。それは、あなたにのうちに宿られている主イエスなのです。